

2024.2.13

エウロクチーナとサローネ国際バスルーム見本市 新レイアウト - 集中力、ナビゲーション、楽しさを向上、ストレスを軽減

リスニング、神経科学、そして革新と実験に向けた継続的な研究のおかげで、エウロクチーナ、FTK - テクノロジー・フォー・ザ・キッチン、国際バスルーム見本市は、より魅力的で効率的になり、自身の方向性を高め、訪れた見本市を記憶する能力が向上します。

第 62 回ミラノサローネ国際家具見本市 (以下、ミラノサローネ) は、イタリアの建築・エンジニアリング界をリードするロンバルディーニ 22 との新たなコラボレーションにより、見本市のフォーマットと来場者体験の発展と進化における重要なマイルストーンとなります。バスルームとキッチンをテーマとした隔年開催の展示レイアウトを見直し、より現代的で効率的、かつ見応えのあるビジネスプラットフォームが構築されました。サローネの包括的な精神と、ロンバルディーニ 22 によるプロジェクトへの全体的なアプローチのおかげで、パビリオンのレイアウトの進化と革新に、戦略的デザイン、神経科学、ユニヴァーサルデザインの専門家の協力を得ることができました。これにより、来場者の無意識のニーズを検証し、訪問時の認知的負荷を軽減し、流れを分析し、パビリオンのレイアウトの基本計画を仮想的に検証することができました。

ロンバルディーニ 22 の見本市を見直すプロジェクト・ディレクター、クリスティアン・カターニアのコメント:

「イノベーションを展示するためには、私たちがイノベーションになる必要があります。私たちは、展示から体験へとパラダイムを変えることで、ミラノサローネをサポートしています。私たちのスキルを結集することで、統合的かつ包括的な段階的進化のプロセスを構築しました。それは、全体的なレイアウトと、実現可能で魅力的な要素としての空間の重要性を認識することから始まります。マスタープランのおかげで、認識可能性、快適性、関与、時間という価値が実現されました。私たちのプロジェクトは、見本市における複雑さと階層化を表現するように設計されており、それはもはや製品だけ、あるいは純粹に商業的な側面だけでなく、特に来場者に提供される体験の質、そして出展者の視認性を保証するものでもあります。空間は、イベントを機能させるためにあるのです」



ミラノサローネ、マリア・ポッロ代表のコメント:

「第 62 回目となる今回のリ・デザインは、来場者、出展企業、バスルームやキッチンの関係者の現場での声に耳を傾けることから始まり、彼らの認識、要望、ニーズを収集することで生まれました。エウロルーチェですでに試行錯誤してきたことを超えて一歩前進し、サローネを特徴づけてきた革新と進化、そして『フロンティア』であり続けたいと考えました。それゆえ、神経科学へのアプローチは不可欠でした。ロンバルディーニ 22 は、パビリオンやブースを歩く人々の感情的・無意識的な行動を分析し、実際の行動に基づいた有益で独創的な体験や、質の高い瞬間や接点を生み出すことを目的とした感情的で関係的な関わりをデザインすることを目指しました」

【神経科学を駆使した新レイアウト】

上記を念頭に置いて、FTK-テクノロジー・フォー・ザ・キッチンをスペースに組み込んだエウロルーチェと国際バスルーム見本市がリ・デザインされました。隣接するパビリオンは、時間とスペースを最適化するために再設計され、すべての出展社に平等なアクセスと可視性を提供しながら、アクセスを簡素化し、より豊かで効率的にします。このプロジェクトは、カルドとデクマヌスという古典的なレイアウトを再び放棄し、より都会的なリング状のレイアウトに再構築しました。

更に今年のミラノサローネは、国際見本市としては初めて神経科学に目を向け、来場者の満足度を測定し、来場体験を向上させるため、展示経路の最適化や様々なタイプの展示に対する来場者の反応を評価しました。認知に多大な労力を要した以前のチェスボードレイアウトではなく、新しいループ状のレイアウトはより直感的でナビゲートしやすくなっています。従来のデザインは、グリッドがモジュール化されているため、純粋な機能性、スペースの商業化の容易さ、技術的な完成度を提供しているものの、通路の多さ、基準点の欠如、パビリオンの外周に沿って非対称の通路が存在し、通路の片側にのみスタンドが配置されているなどの弱点があります。

【効率的な通路 - 従来の半分の距離】

新しいレイアウトのおかげで、来場者用通路の左右の外周全体に沿って展示品が配置されるようになります。ブースを外周の壁に寄せて配置し、来場者の視界から技術的な壁を取り除くことで、左右対称のルートが構成されました。主要な通路はより広くなり、文化的なインスタレーションや静かなエリアが用意され、見本市で経験する典型的な博物館疲れを取り除くべく、従来の 1.2km でなく、約半分の 640m ですべてのブースを回れるようになり、幅 6 メートル以上のメインルートと、サイドルートが明確に区別され、展示の移動が容易になります。



【フードデザインのためのディスプレイ】

ロンバルディーニ 22 は、エウロクチーナの文化的なイベントのひとつである、**フードデザインのためのディスプレイ**もデザインしました。この中央エリアは**モジュール式のステージ**のように設計されており、**力強く特徴的でありながら同時に中立的で**、毎日、業界誌、パフォーマー、アーティスト、そして世界中から集まる**フードデザイナー**集団を迎え、**食の現在と未来について前例のない独創的なビジョンを提示**します。このエリアは、ユニークな星形が特徴的で、そのカーブや入口は、コンテンツや**フード・デザイナーの作業スペース**に容易に適応できるようにになっています。

周囲のカーテンは、**質感、生地、色ともにニュートラル**で、必要に応じて開閉でき、その場限りのシナリオを作ることができます。星の輪郭を照らす光も、**寒色と暖色、オンとオフ、白色と有彩色**を変えることができ、さらなる**カスタマイズとコンフィギュレーション**を可能にしています。空間全体としては、**2つのエリアが隣接し、相互に繋がっています**。一方は、ラボと印象的な作業台がある**機能的なエリア**、もう一方は、**フードデザインの世界に特化した独立した国際的な書籍や雑誌**の展示スペースです。この 2 つのスペースの間にある**技術的な壁**では、**デザインシーンへと誘導するビデオ・プロジェクション**が上映されます。全体的に**円形で流動的なレイアウト**となっており、仕上げの連続性が空間のハイブリッド化を強調しています。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it